

諏訪地域中小企業における 対応力の歴史的形成過程

大阪商業大学 桑野博行

第1節 はじめに

- ①「域外マーケットとの関係構築」
- ②「技術の効率的な蓄積と利用」の好循環
 - ▶ この仕組みの形成過程を歴史的に整理

第1節 はじめに

- ▶ 諏訪地域では
 - ①「域外マーケットとの関係構築」
 - ②「技術の効率的な蓄積と利用」の好循環
 - ③起業家精神を持つ人材の存在
- ▶ これらが製糸業の時代から存在していた

第2節 地域工業集積の形成過程

▶ 明治～昭和初期

① 岡谷の製糸とバルブ工業

② 北澤製作所・東洋バルブ

③ 製糸・バルブ産業を下支えした地元企業

第2節 地域工業集積の形成過程

▶ 第二次大戦直前—精密産業の礎

大和工業・第二精工舎諏訪工場（後の諏訪精工舎）

▶ 戦後～高度成長期における代表的な企業の創出

①北澤工業・東洋バルヴからの独立（異業種）

②北澤工業・東洋バルヴからの独立（同業種）

③大和工業・第二精工舎諏訪工場との関連企業

第3節 現在の中核的企業とのつながり

▶ ヒアリング調査を中心に

- 野村ユニソン
- ミスズ工業、サンメディカル技術研究所
- その他

第4節 まとめにかえて

- ①「域外マーケットとの関係構築」
- ②「技術の効率的な蓄積と利用」の好循環
- ③「製糸業」の存在と転換期への対応
- ④地域内に起業家精神（資本家的資質）を持つ人材が存在し、現在まで再生産されてきたこと

第4節 まとめにかえて

①「域外マーケットとの関係構築」

- 移動能力
- 情報収集能力

②「技術の効率的な蓄積と利用」の好循環

- 経営者＝労働者（起業家精神）
- 現場での知識

* 製糸の時代に条件が出そろふ

第4節 まとめにかえて

③「製糸業」の存在と転換期への対応

- 疎開企業の誘致
- 繊維関連企業の軍需工場化

④起業者精神（資本家的資質）を持つ人材が存在し、現在まで再生産されてきた

- 先人たちの行動が規範の一つ
- 考え方の継承する場の存在